

令和元年度第2回大阪府立少年自然の家指定管理者評価委員会会議概要

〇 日 時：令和元年 12 月 18 日（水） 11：00～12：00

〇 場 所：大阪府庁別館 6 階 委員会議室

〇 委員出席：5 名（岡田委員長、植木委員、小山委員、西川委員、松本委員）

1 開 会

2 挨拶

3 議 事（質疑要旨）

大阪府立少年自然の家 令和元年度指定管理者の業務状況の評価について

◆事務局から令和元年度指定管理業務評価票案について説明

<質疑応答>

委員：勤務時間について、やや残業が一部の職員の方に固まっているように見受けられる。勤務時間の管理というところは、使用者側の責任になってくるので、適切な勤務時間の管理には引き続きご留意いただきたい。

また、大規模なイベント実施の際には、①苦情の窓口をどう設置するのか、②禁煙であることのアナウンス、③駐車場の確保を検討いただきたい。

指定管理者：残業時間の職員間の偏りだが、食堂職員は、繁忙期と閑散期の勤務時間が違っており、4 月から 8 月ぐらいまでの勤務時間が長くなってしまいうので、その分残業になることがある。次年度から閑散期について時間を短くする変形労働制を取り入れるということを考えており、少し緩和が可能かと思われる。

イベントでの駐車場や喫煙対策については、次回の検討材料としたいと思う。

委員：環境の取り組みについて、廃棄食材の処理はどうしているのか。リサイクルなど、そういったことは行っているのか。また、太陽光発電などの再生可能エネルギーや、プラスチックごみの圧縮といった取り組みについても今後考えていただきたい。

もう 1 つ、災害発生時における自家発電装置などの電源確保は何かあるのか。

指定管理者：自家発電装置があり、去年の台風 21 号の際にも自家発電装置が作動し、しばらくは電気・水なども動いていたが、燃料も無くなり途中で切れてしまった。今年は太陽光パネルを購入し、せめて携帯電話などの小さな機器の充電だけができるようにした。

委員：自家発電の時間はどのくらいなのか。

指定管理：自家発電装置は、燃料を灯油で動いており、灯油の使用量が多く、去年の作動時には、このままだとすぐ燃料が無くなってしまいうだろうという心配があったため、結局 1 日くらい、お客様がいなくなった時点で一旦停めることとした。それでランタンなどで電気を取ってやっていたのだが、次に自家発電装置を作動させようとしたところ、手動ではつかなくなっていた。冷凍している食材等の保管に困り、業者に預かってもらったり、職員が大型の発電機を持ってきたりして、なんとか凌いだという事例があった。

委員：そういったことを踏まえて、次の対策を考えてもらえれば良い。

委員長：照明の LED 化は進んでいるか？

指定管理：LED 化は進んでおり、今年度の電気量も減っている。これも過去何年間に分けて、体育館やオリエンテーションホール、食堂も LED 化した効果が出ているのかなと思っている。

委員：評価基準について、目標値 85%以上 100%未満が A となっているが、民間では 90% を割って A 評価というのは、あまり無いような気がする。今回は良いが、これ自体がどうなのかと考える。環境が厳しいということであれば理解できる。I（3）のところ言うと、①から⑤があって、①が KGI、Key・Goal・Indicator（重要目標達成指標）、他のところは KPI（Key・Performance・Indicator（重要業績評価指標））。つまりパフォーマンスの途中指標は頑張っているのは分かるが、最後の KGI、いわゆるゴール指標が 90 割というのは、あんまり良いことではないと思う。定量評価としては、そこは厳正にやった方が良いかと考える。

もう 1 つ、広報情報発信の仕組みについて。

広報の対象にインバウンド系旅行会社に広げるなど、積極的な広報活動を行っているという話だが修学旅行など、団体旅行者で使ってもらおうという施策を打つのがいいのかと思った。また、SNS ツールでも、今の主流がInstagramであるならば、それを普及させるような策があってもいいかと、効果的に使ってはどうかと考える。

事務局：評価について、自然の家の利用者数は、年度初めが多く、後半、冬場に少なくなるため、現時点で通年でならずと、非常に数字がおかしなこととなる。評価委員会開催時期での利用者数を経過をみると、全体の 85%くらいになっているためこのような設定となっている。とはいえ、我々も少し問題があると思っている。1 つは、この会議の開催時期でぶれる恐れがあること。もう 1 つは、利用者数はこの設定で良いが、事業回数が現時点で評価すると、閑散期の利用者増加に努めるため後半に実施する予定のものの評価が反映されないこと。

来年度以降の評価については、もう少し分かり易かつ、時点を決める等、新しい形で提案させていただければと考えているところ。

委員：今までが、85%が水準だからというのであれば、すごく分かり易い。ただ第三者が見る時に 85%で A にしているというのは、少し甘い評価に見えないかが気になるところである。

委員長：インバウンド系旅行会社へ広報活動を行い、何か手ごたえはあったか？

指定管理者：既に来年の予約をいただいている。

今の傾向としては、例えば、中国の方でも都会の方は自然体験というのを全くしたことのない子どもたちが沢山いるため、自然の家のようなところで、自然体験や地域の何かを使って農業体験をすることを希望されている。引き続き継続して広報活動を行っていきたいと思う。

委員長：先程のInstagramの活用だが、#（ハッシュタグ）に、少し工夫がいるかと考える。似たような活動内容をしているところのものは、どういうワードが引っかかってくるのかりサーチする必要があるかと思う。

あと、全般的に青少年教育施設の利用者が減る傾向にあるという話があったが。

事務局：利用者数について、近隣にある 2、3 の青少年教育施設にヒアリングしたところ、学校団

体の宿泊日数が減っていたり、利用者数がなだらかに減少しているという話があった。少年自然の家も団体数は増えているが、利用者数が減っているという傾向にある。原因をリサーチする必要があると考えている。

委員：学校関係でいうと、宿泊行事も短縮するという方向で教員の過重労働を解消していくという流れとなっているため、これから宿泊行事が減っていくかと考えられる。

事務局：指定管理者とも相談しながら色々進めていきたいと思う。

委員長：社会状況も変わってくると、施設の有り様とか、戦略も変わってくるのかと思う。

以上